

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372900585		
法人名	東海エイド株式会社		
事業所名	グループホームなごみや (1F)		
所在地	愛知県刈谷市井ヶ谷町久伝原41		
自己評価作成日	令和2年3月2日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2372900585-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なごみや理念を毎朝申し送り時に唱和している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から16年の歴史が堅実に取組みや地域の信頼に突っている事業所です。「草刈しようか」と声をかけてくださる人をはじめ近所の信愛に恵まれ、また家族が打楽器や歌で楽しませてくれたり、美容師資格をもつ職員がボランティアでカットしたりと、温かなふれあいが満ちています。珈琲好きな利用者の家族が喫茶店に連れ出してくださるとき、他の利用者も誘ってくださるとのエピソードには家族とワンチームとの絆が伝わり、「習字をやりたい」「生け花をつづけたい」の声にボランティアとの協働で応え、馴染みのスーパーマーケットでは利用者に支払いをお願いしてレジスタッフとも顔なじみとなっていて、日日の職員の勤しみが滲みます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りにて参加職員全員で理念を唱和する事で、内容を意識共有し業務にあたっているが、実践につなげられていない面もある。	事業所理念は事業所内に掲示するとともに朝礼で読み上げており、職員は暗唱できる程ですが、「体现できているか」というと、できている職員ばかりではないと管理者は捉えています。それでも何かあったら振り返る道筋に出来ています。	朝礼や午後の申し送りを活用した意識づけがあると、なおよいと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会に入会している。 地域の敬老会や祭りに参加させていただいているが、日常的な交流はできていない。	鉢に植わった花木を観賞用にと届けてくださり、まるでリース会社のような対応をくださる人、「草刈しようか」と声をかけてくださる人など近所の信愛に恵まれ、また家族が打楽器や歌で楽しませてくれたり、美容師資格をもつ職員がボランティアでカットしたりと、温かなふれあいがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	十分に活かすことはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ある程度反映させることはできている。 災害時の対策案や入居者の生活、職員の働きやすさなど意見を頂く機会があり向上に繋がっている。	運営推進会議は開催月を年間で定め、当月参加のメンバーに諮って次回の日を決める方式で、つつがなく隔月実施が叶っています。職員の異動情報も盛り込んで判りやすいレジュメであり、また事故が起きた場合も詳らかに報告するようにしています。	欠席になってしまう人もいるため、もともとの母となるメンバー数を増やすことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域会議の場を設けている。	刈谷市長寿課並びに地域包括支援センターには運営推進会議に足を運んでもらえています。開設16年の長い歴史と職員の定着率を以て新規利用者を紹介してもらえた例もあり、事業所でもわからないことは電話で確認しています。また、介護相談員の受入れも継続しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の拘束に関する研修を行う事で自身の行っているケアが拘束にあたらないか見直す機会としている。また3か月に1度身体拘束委員会を開催し見直し点検を行っている。	身体拘束廃止未実施減算については、指針を整備して身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度開催しています。書面整備は遅れていますが、委員会での協議は「この呼びかけはどうか？」と具体的に事例検討していることから、現場に反映できていることが観えます。	実施記録は残っているため、適切に書面化して整備することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をテーマとした内部研修を実施し意識啓発を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ユニットには制度を利用している方はおらず、学ぶ機会を設けていない。必要時ご家族に提案出来る様学んでおく必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時はもちろん改定時にも直接ご家族にお会いし1対1にて説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1度、市より相談員の来所あり、利用者の意見を外部へ表出できる機会となっている。またご家族との面会や利用者へのモニタリング時個別に要望や意見をお伺いしている。	利用者を担当する職員が「今月の活動報告」「今月の健康状態」「連絡事項」と項目の分かれたお便りを手書きで綴り、写真入りの『なごみや新聞』とともに、毎月家族に届けており、家族会も年2回実施しています。毎日面会に訪れる家族もいて、家族とは円満な関係を築いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やユニット会議を通して意見や提案を受け運営に反映している。	リーダー会議、ユニット会議を毎月実施しており、内気でなかなか発言できない人には進行役がふって万遍なく意見を集めています。また開設時から勤務の職員が1名、10年以上は4名ほどいて、離職者が少ないことも充実した話し合いに実っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトに関して負担に偏りがなく第三者である上司が客観的視点で確認している。半年に一度または必要時に面談を行い職員の現状確認に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	書面にて個別に希望する研修の記載を行っている。力量を見て依頼や希望のもと研修参加など学ぶ機会を設けているが十分とは言えない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡会の参加や研修を通じて関係のできた同業者との交流を行っている。職員の参加も調整行うが、現場調整に余裕がなく参加の機会が作れていない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初はホームでの生活に慣れていただけく事を第一に考え、ご本人様のペースで過ごせる様配慮している。会話や関わりの中からアセスメントを行い、ご本人様ご家族の思いを知るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前より、ご本人様に関わってきた関係機関からの情報を参考に面談を行い、ご本人、ご家族様が思いを伝えやすい様配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談初期にご本人様やご家族様が必要としている支援(介護内容、医療的ニーズ、金銭的負担)を当ホームが提供可能か検討させていただき難しい場合は他機関をご紹介したケースもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の方が得意とする分野で力を発揮出来る様、家事やレクへの参加を誘導しているが十分にはできていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのふれあいの機会を持ち続ける事で当ホームでの生活が穏やかに送れる方や、家族自身が来所しご本人様の介助を手伝う事に生きがいを感じている方もみえる。その様な思いを大切にしたいと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から面会の制限がない方については面会の受け入れをしている。 馴染みの場へは出掛けられていない。	洋服屋を営んでいた人は洗濯ものをたたむことを丁寧に実直におこなっています。また電気屋だった人はこまめにコンセントを抜いたり、電灯の照度が気になったりするのを職員が理解して、支援しています。フルーツや青汁を家族希望で継続している人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に合わせ一緒に外出したり一緒に作業に取り組む機会を作り仲間意識をもってもらえたらと考え行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去理由で多いのが入院である。その間ご家族や病院関係者から情報をいただき状態を伺い知る事が出来ている。ご相談があれば必要な助言をさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話や個別支援やモニタリングを行う中で、ご本人様の思いを把握する様に努めている。言葉として思いを伝えられない方については表情やしぐさから推し測っている。	入居にあたりセンター方式を家族に作成を依頼しています。C-1-2「わたしの姿と気持ちシート」は、手を置く場所などからその人が伝わりるので、職員の観察の深さが覗えます。「お彼岸だね」「おはぎが食べたい」には献立を差し替えるなどして、速やかに対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時センター方式のアセスメントシートの一部をご家族に記入依頼、そこからご本人様の生活歴を知る。また入居後日常的な会話の中からご本人様の生活ぶりを聞き出す工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、個人記録、アセスメント、モニタリングの中からご本人様の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行う各ユニット会議にて職員間の情報を共有を行っている。モニタリングについては利用者付の担当職員と行い意見を出し合い介護計画の原案を作成している。ご家族ご本人様には原案提示後その後出た意見、要望を追加するなど修正を加えている。	日々現場で生活記録票(2表のサービス内容を反映)をつけ、積み重ねたその情報をケアカンファレンスシート(現状と課題、ケア方針)へと担当者が予め整理したうえでユニット会議に持ち込んでカンファレンスを毎月おこなって、チームケアへつなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録のチェック項目でケアプランの実践状況を把握出来るようにしている。個別ケアを意識して実践してゆくねらいもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出など人員の確保が必要な内容是对応できていないが、出来る限りのニーズにこたえようと努力はしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	思う様に外出する機会を作れず地域資源を活用出来ていない。入居者様の重度化を考えると出ていく事より招き入れる事の出来る資源を見つけてゆきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望をとっている。殆んどの方が往診して下さる協力医院さんを選ばれる。定期受診以外突発でかかる病院に関してはご家族のご希望で選ばれる事もある。	急変時への安心から、「普段来所している訪問看護師の母体医院のほうか…」との判断に至り、14名が月2回の訪問診療をおこなう協力医に変更しています。看護師と薬剤師も随行する診療には、計画作成担当者が立ち合い、往診記録と生活記録表に医療情報を残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医と同医院からの訪看ステーションと医療連携を行っている。医師との連絡もスムーズに行えている。利用者個々の状態もしっかり把握できている為ホーム職員が適切な助言を受けることが可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを交付し情報提供を行っている。入院中お見舞いを兼ねご本人様の様子を病院関係者より伺う。また退院時にはカンファレンスを行い退院後の生活への準備を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変時や終末期における医療に関する確認書においてご家族、ご本人様の意思を確認させていただいている。この確認書は年1回3月に意見の変化がないか再確認を行っている。	『看取り介護についての方針説明』に基づき、看取りをおこなう事業所であることを説明して、合意形成しています。ここ1年で無事2名をお見送りしていますが、職員の中には看取りロスとなる人もいて、本部マネージャーが気持ちを聴いたり、考え方を示唆してフォローしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年社内研修として救命講習へ参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練の実施、年1回災害備用品の点検を行っている。地域防災訓練へ参加している。	6月に火災設定で実施、一部利用者も水消火器を体験しています。11月には水害に対する訓練で垂直避難をおこない、「エレベーターには案外沢山乗れないね」ということを確認しています。アルファ米など3日分を保管している備蓄のチェックは毎年8月におこなっています。	次回は夜間想定の実施を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にプライバシー保護の内容を取り入れており再認識する機会としている。1階のユニット目標にも掲げ意識しケアにあたる努力をしている。	職員アンケートから「羞恥心への配慮が課題」ということがあがり、事業所内掲示や会議のレジュメに刷り込むなどして意識啓発に努めた結果、万全とはいかないまでも向上しています。また朝の着替え支援も、「どちらがいいですか?」と確認することが定着しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話が可能な方には選択を行う機会を増やす様な声掛けを実施。分かりやすい言葉や少ない選択肢に絞る質問をしたりし意志の表出を促しているが職員の都合を優先する場面もあり十分とは言えない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして一定の日課はあるが参加するかしないかは本人様のペースにお任せしている。希望により夕食時間をずらしている方もあるがまだ十分に希望に沿えているとは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅から持参したり、ご家族がご用意して下さった衣類を使用しているためその人らしさが出ていると考えます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事やレク活動では行事食を用意し普段と違う雰囲気味わえていると思う。食事作りの一部や盛り付けをお手伝いしてもらうことで持てる力を発揮していただく機会を設けている。	主菜、汁物、副菜2品とボリューム満載の手作り献立を毎食提供しています。畑で収穫した大根をつかったり、鍋パーティや干し柿づくりで盛り上がる日もあります。節分やクリスマスなどの行事食、誕生日のケーキと、「食の楽しみ」が豊富です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的な献立については食材業者へ委託しているため栄養バランスはとれていると考える。食事形態を個々に合わせ全量食べていただける工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後各々に合った方法で誘導介助を行っている。義歯の消毒保管は職員が行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を基に個人のパターンを把握し、声掛け誘導を行い、トイレにて排泄出来る様努力している。	平均介護度2.8ですが、軽度と重度にわかれていて真ん中があまりいない状況で、排泄の介助においても必要のない人が8名います。また大きな支障がなければ、リハパンで入居しても布パンとパットに即変更しており、介護4でベッド上交換なのに布パンとの人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて便通把握、水分摂取を促したり食物繊維の多い食品を摂るなど工夫しているが効果みられない方へは薬剤にてコントロール行っている。毎朝ラジオ体操リハビリ体操を実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯や回数については施設都合になっているが入浴好きな方はなるべく多く入れる様、また順番や湯温などは好みに合わせている。	1日おきの入浴を勧めており、清潔を保っています。拒否の人にはじっくり向き合いアプローチを長くとることでなんとか入ってもらえています。また湯に浸かると気持ちが良いのが饒舌になり、職員との会話が弾んでいます。しょうぶ湯、柚子湯といった時節風呂も取り入れています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活パターン、体力に合わせて入眠時間に差をつけている。また照明や室温好みに合わせ環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が往診にも立ち合っている為不明な事を聞きやすい環境にある。一方職員が薬の理解にやや弱い面あり。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、書写、針仕事など各々が得意な事で力が発揮出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一部の方はご家族の協力によって出掛けられているが、施設としての対応はあらかじめ計画されている外出以外は難しい状況にある。	気候のほかに職員配置の余裕も影響しますが、なるべく散歩にはできるようにしています。恒例行事として初詣、桜の花見、秋の遠足があるほか、担当者との誕生日外出が個別でおこなわれています。また気分転換に配慮して、職員が買い物があるとき誘うよう努めています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の方については自身で小遣い程度の金額を管理されているが、それ以外の方はご家族から預かったお金を当方で管理必要時支払いを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には電話の取次ぎを行っている。自己にて携帯を持っておりご家族へご自身で連絡をとっている方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開放し空気の入替えを行い季節の風や光を感じていただける様配慮、掲示物や壁飾り、生け花にて季節感を味わえる様工夫している。	少し詰めると全員座るほど大きなソファが4基あり、共用空間はスペースがゆったりあって、清々としたリビングには大半の人が集まっています。他県での大きな地震のとき、すべての家具につばり棒などの耐震設備を配しており、安心です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性も考慮しながら食事、ソファの席誘導を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具など持ち込んでいただいたり、本人の希望を取り入れながら家具を配置するなど対応している。	ベッドとクローゼット、エアコンを予め備えており、カーテンは事業所が用意したカタログから好みの色や柄を選んでもらっています。冷蔵庫を持ち込んでいる人が2名おり、便秘が気になる二人のためかバナナとヨーグルトが常備され、賞味期限は職員が気にかけています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の希望を取り入れながら残存機能を生かした環境作りに心がけているが1人1人の力を活かすところまではできていない。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372900585		
法人名	東海エイド株式会社		
事業所名	グループホームなごみや (2F)		
所在地	愛知県刈谷市井ヶ谷町久伝原41		
自己評価作成日	令和2年3月2日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2372900585-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の尊厳を大切にしながら穏やかに生活していただけるよう職員が意識して支援に当たっている。 ・かかりつけ医や訪問看護ステーションとの連携が上手く行えており、看取りにも対応してゆける施設になってきた。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設から16年の歴史が堅実に取組みや地域の信頼に突っ込んでいる事業所です。「草刈しようか」と声をかけてくださる人をはじめ近所の信愛に恵まれ、また家族が打楽器や歌で楽しませてくれたり、美容師資格をもつ職員がボランティアでカットしたりと、温かなふれあいが満ちています。珈琲好きな利用者の家族が喫茶店に連れ出してくださるとき、他の利用者も誘ってくださるとのエピソードには家族とワンチームとの絆が伝わり、「習字をやりたい」「生け花をつづけたい」の声にボランティアとの協働で応え、馴染みのスーパーマーケットでは利用者に支払いをお願いしてレジスタッフとも顔なじみとなっていて、日日の職員の勤しみが滲みます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りの時に唱和している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域会議 ・おまつり、みこし等町内会行事にも出来る範囲で参加		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践できているか分からない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部からの意見を参考にできていると考える		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域会議の場を設けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全を第一に考え、必要最小限(玄関のカギをする等)におさえ、拘束のないサービスを目指す		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	時々、利用者様に対して声を荒げてしまう場面も有り		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学べていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っており、現場の職員は十分把握できていないが、行っていると思われる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が来て、話を聞く機会がある		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で出た質疑や要望をリーダー会議へ出し、上層部へ相談している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	分かりません		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	分かりません		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十分に出来ているとは言えない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お話を伺いながら、どこまでお手伝いしたら良いのか？何を支援してほしいか等考える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を伺いながら分かる範囲でお伝えする。また、一緒に考える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の関わりを現場職員が行う機会が少なく、分からない		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意な事について聞き教えていただく。相談する。私のグチを聞いていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向を汲みながら、どうしたらうまくいくのか相談して一緒に考える。以前の嗜好なども聞く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が来所されることは稀にあるが、関係の維持支援はできていない		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルに発展しないよう見守り、声掛けを実践。場所を考慮する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経験したことがなく分からない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ふとした時に発せられる言葉を、記録に残したりしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人記録を読んだりお話を伺いながら理解しようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	異変を感じる場合は注視して記録に残すよう依頼している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別で家族や医療関係者と話をする機会はある。どうしたら良いのかは考えることあるが、十分な介護計画に繋がっていないこともある		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一時的に期間を決めて取り組む場合は連絡ノートに記載して、実践結果の記録依頼をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	わかりません		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	わかりません		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良時等病院受診に同行、介助を行う。外の指示を仰ぐ。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師等、申し送りにあつた内容や、自己の知る内容を伝える。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	わかりません		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎年「急変時や終末期における医療に関する意思確認書」を家族に記入		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの研修を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域防災訓練		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	噂話や悪口など、言わないように心掛ける		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣の時など、服を選んでもらう。選択になっちゃうが、どんなお茶？お菓子？等聞いてみる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お風呂の順番を希望聞いたり、活動レクを質問することはあるが、個々のペースには添えていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	暑い寒いを考慮。着衣を整える。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の入居者とは皿洗いを職員といっしょに行っている。病院では食べなかった人が施設では食べる様になっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく配膳を行う。きざみ、ミキサー、とろみ等個々に合わせた対応を行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方から口腔ケアを行っている。また、声掛けの必要な方にも声掛けを行う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の様子を見たり、時間を決めてトイレへ一緒に行ったりする。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や寒天など工夫しているが下痢になったり、効果が弱いなど、薬を併用することもある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る範囲で聞く		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者によっては食事の前後に居室で休む機会を作っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師から注意事項の連絡があるが、全員が十分に理解できていない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や喫茶店に家族と出かけることがある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レク、買い物支援を行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は財布をもっている。多くは職員が管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できていないと思う。携帯電話をもっている人もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除 壁面で季節感をだす		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性も考慮しながら食事、ソファの席誘導を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具など持ち込んでいただいたり、本人の希望を取り入れながら家具を配置するなど対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや部屋に貼り紙をしている		